

新規就農者の知識習得および就農支援

(課題番号 11)

- ◆活動年次：令和5年度
- ◆対象：令和5年度農村ゼミナール2年目受講生（3戸）＋1年目受講生（2戸）
- ◆目標事項：①各栽培技術習得項目の実施によるトマト収量確保（部会平均収量対比100%）
②トマト栽培に係る技術習得率（90%）
- ◆到達度合：①平均収量で部会平均対比107%を確保。②参加者の技術習得率100%を達成。

1 課題の背景

平成24年度から新規参入者および農家子弟の育成・技術習得を目的とした2年間の「農村ゼミナール」を開講している。

令和5年度は、実践ほ場で研修を行う3戸の2年目受講生に対してトマト収量確保を目的に個別巡回指導で就農支援を行った。また、1年目受講生2戸に対しては知識習得を目的に研修会を開催した。

2 活動の経過

表2 2年目個別巡回指導内容と実施回数

時期	指導内容	実施回数 (1戸あたり)
4～5月	育苗管理	3回
4～9月	定植後の温度管理	9回
5～10月	摘葉・脇芽とり・病害虫防除	8回
7～9月	トマトーン処理	3回

※個別巡回は月2回ペースで実施

表3 1年目研修会日程

形態	時期	内容	講師
現地	5月	【第1回】生育診断の手法	普及センター
	9月	【第2回】先進農家ほ場視察	普及センター
	11月	【第3回】土壌断面調査	普及センター
座学	10月	【第1回】病害虫	普及センター
	1月	【第2回】施肥設計(基礎)	農業支援センター
	1月	【第3回】施肥設計(実践)	農業支援センター
	2月	【第4回】育苗管理	普及センター
	2月	【第5回】定植管理	普及センター
	3月	【第6回】経営管理・クミカンの見方	JA

表1 平取町における就農までの流れ

年次	内容	指導内容
1年目	受入農家にて研修	←研修会による知識習得
2年目	実践農場で実践研修	←個別巡回での就農支援
3年目	自分の就農地で就農開始	-

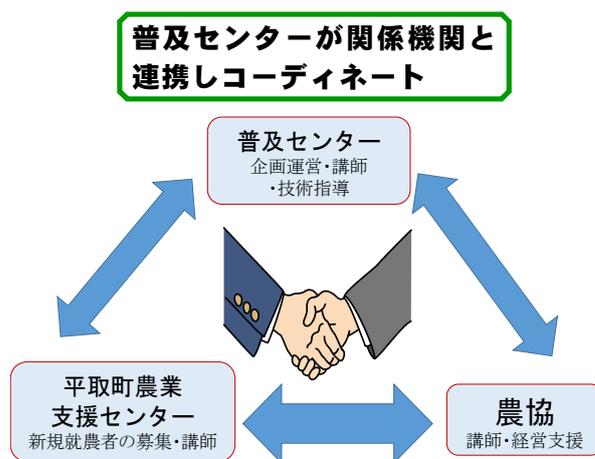


図1 関係機関との連携図



写真1【2年目】個別巡回指導 写真2【1年目】生育診断手法の習得 写真3【1年目】先進農家ほ場視察

3 活動の成果

- 2年目受講生3戸の平均収量は37.8kg/坪で、部会平均対比で107%を確保した。
※部会平均は35.3kg/坪
- 研修会後のアンケートでは1年目受講生の理解度100%を達成した。

表4 2年目受講生に提案した技術と実施の有無

受講生 (年次)	Dさん (2年目)	Eさん (2年目)	Fさん (2年目)
育苗管理	○	○	○
定植後の温度管理	○	○	○
摘葉・脇芽とり・病虫害防除	○	×	○
トマトトーン処理	×	○	○

○：実施できた ×：実施できなかった

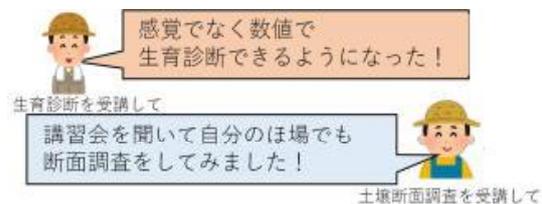


図2 ゼミ生達の声

表5 1年目受講生の各講習会の理解度

受講生 (年次)	Aさん (1年目)	Bさん (1年目)
【現地】生育診断の手法	○	○
【現地】土壌断面調査	○	○
【座学】病虫害	○	○

○：理解した ×：わからなかった

4 残された問題点

- 次年度は1年目受講生2戸が実践農場での研修に移行するため、引き続き支援を行う。
- 1年目受講生に対してはアンケートの実施にとどまっており、各研修の理解度把握が不十分であった。

5 今後の対応

- 次年度は個別巡回指導の対象を就農1年目（3年目受講生）まで拡大する。
- 年度終了時のアンケートで詳細な理解度把握に努める。